日本音楽療法学会認定音楽療法士
第五期 資格取得必修講習会
シラバス

2018年3月　発行

音楽療法概論…… １ｐ

音楽療法各論

　　障がい児・者 …… １ｐ

　　高齢者 …… ２ｐ

　　リハビリテーション …… ２ｐ

　　精神科領域 …… ２ｐ

　　緩和ケア・その他 …… ３ｐ

事例の書き方・研究…… ３ｐ

音楽療法技法Ａ　音楽系…… ４ｐ

音楽療法技法Ｂ　非音楽系…… ４ｐ

音楽療法演習…… ５ｐ

日本音楽療法学会　資格認定委員会

禁無断転載

音楽療法士資格取得必修講座　第五期シラバス

枠番号は、スケジュール表の時系列に沿って、各講習会のブロックごとにつけられています。
コマ番号は各科目ごとの通し番号です。スケジュール表と合わせてご確認ください。

【必修講習会の目的（ねらい）】

この講座は、日本音楽療法学会の資格認定制度により、学会認定音楽療法士資格取得を希望する、**日本音楽療法学会正会員のために**企画されたものです。事情により学会認定の養成校での学習が困難、不可能な方を対象として設定されました（定員120名）。受講される皆様が、**本講習会を受講するだけでなく、それ以上に各講座の間の期間に予習・復習を十分にし**、認定音楽療法士として必要な知識と力を着実につけていただくことを目的としています。

音楽療法概論

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
①	1	イントロダクション	音楽療法の専門性を獲得するために必要な知識やスキル（読む、書くこと、音楽的技術、人との関わりなど）について学ぶ。	
	2	音楽療法の実際	音楽療法とは何か。音楽療法の実際について、映像や音楽療法士の活動体験談を通して学ぶ。	
	3	音と聴覚・音と脳	音・音楽がどのような要素から構成され、それぞれは脳でどのように処理されるのか、音・音楽の脳への情報伝達プロセスと脳機能との関係について学ぶ。	
	4	人間と音楽	音楽の起源をヒトと音・音楽の関係に遡り、ヒトから人への進化にそって、芸術になる過程の検証から、音楽の技能と効果の特性について学ぶ。	
③	5	音楽療法の歴史	人と音楽の治療的関わりの歴史、および海外と日本における音楽療法の歴史と現在までの経緯について学ぶ。	
	6	音楽療法の対象者	福祉、教育、医療など様々な現場で音楽療法士が関わる幅広い対象者について学ぶ。	
	7	音楽療法の実践	音楽療法とは何か、音楽療法に特有の三要素（音楽、援助、理論）および音楽の生理的、心理的、社会的機能、音楽療法の臨床現場について学ぶ。	
	8	障がい児・者	障がい児・者に対する音楽療法の実際について学ぶ。障がいとは何か、それに伴う音楽療法の形態を知る。	
④	9	高齢者・その他	高齢者に対する音楽療法の実際について学ぶ。加齢現象、加齢に伴う問題、認知症について学び、それらの音楽療法の形態を知る。その他の対象領域についても学ぶ。	
	10	音楽療法と社会システム	いまの時代に即した音楽療法を実践していくために何が求められているか、障がい者をめぐる社会制度の視点から考える。	
	11	音楽療法の理論とアプローチ　1	音楽療法の諸理論を知り、その理論に基づいた様々な技法を学ぶ。心理療法的アプローチ、教育的アプローチ、医療的アプローチ、その他のアプローチについて理解を深める。	
	12	音楽療法の理論とアプローチ　2		
㉜	13	音楽療法の倫理／スーパービジョン	音楽療法に携わる際に倫理意識を持つことが必要である。対象者を守るとともに対人援助職として持つべき倫理について学ぶ。さらにスーパービジョンとは何か、また、その必要性について学ぶ。	
㊱	14	総括	社会状況をふまえての仕事（専門職）としての音楽療法の展望、資格の意味について考える。最後に概論全体の筆記テストを受ける。	

音楽療法各論：障がい児・者

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
⑧	1	障がい児・者の音楽療法の目的　1	障がい児・者との音楽療法に必要な障がいの理解や発達の順序性などについて学ぶ。	
	2	障がい児・者の音楽療法の目的　2	発達障がい児・者の音楽療法臨床における枠組み・アセスメント・目標設定・関与観察・評価等について、具体的に学ぶ。インテイクセッションの方法を体験する。	
	3	障がい児・者の音楽療法の実際	障がい児・者の様々な臨床の実践について、音楽療法士の活動体験談を通して学ぶ。	
⑮	4	感覚機能系障がい児・者の音楽療法	感覚機能の働きについての基礎を学習し、感覚機能系障がい児・者への対応、および彼らへの音楽療法の目的と方法について理解する。	
	5	運動機能系障がい児・者の音楽療法	運動機能の発達を理解し、運動機能系障がい、および援助について学ぶ。また、運動機能系障がい児・者への音楽療法の目的と方法についても学習する。	

音楽療法各論：高齢者

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
⑬	1	対象者理解と高齢者の音楽療法の実際　1	高齢者の音楽療法の目的を理解し、高齢者の身体的・心理的・社会的状態と、高齢者を取り巻く環境、生活、社会制度、施設について知る。実際のさまざまな音楽療法のアプローチがあることを知る。	
	2	高齢者の音楽療法の実際　2	高齢者領域でのアセスメント、目標設定、計画立案、プログラミングについて学ぶ。	
	3	高齢者の音楽療法の実際　3	高齢者の様々な臨床の実践について、音楽療法士の活動体験談を通して学ぶ。	
⑰	4	高齢者の音楽療法の実際　4	歌唱活動、身体活動、楽器活動それぞれの目的と方法を概説する。ビデオによる事例の観察により、記録・評価を実際に行い対象者理解を深める。	
	5	高齢者の音楽療法の実際　5　およびまとめ	高齢者の現場で関わる他の治療方法や職種を理解し、連携の取り方と音楽療法の独自性を考える。また、まとめとしてこれまでの講義のふり返りと重要事項の確認をする。	

音楽療法各論：リハビリテーション

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
㉝	1	リハビリテーションと音楽療法　1	リハビリテーションの治療的介入における、音・音楽の適用について理解する。①音楽療法と心身の機能構造、感覚運動、神経生理学的機能との関係について学ぶ。	
	2	リハビリテーションと音楽療法　2	②脳の構造と神経生理学的機能に基づく、高次脳機能に対するリハビリテーション技法を学ぶ。③リハビリテーションにおける治療援助コミュニケーション技能について学ぶ。	

音楽療法各論：精神科領域

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
㉑	1	精神障がいの理解	精神障がいを理解するにあたって必要な知識について学び、幅広い対象者について知る。	
	2	精神科領域の音楽療法の目的・構造・方法	精神科の音楽療法の目的の設定、グループ構造および活動とプログラムについて学ぶ。	
	3	精神科領域の音楽療法の実際　1	精神科領域の様々な臨床の実践について、音楽療法士の活動体験談を通して学ぶ。	
㉖	4	精神科領域の音楽療法の実際　2	集団歌唱・合奏・即興演奏などの具体的な音楽療法について学ぶ。症例を通して音楽療法の役割を理解する。	
	5	精神科領域の音楽療法の実際　3	対象者の疾患、回復状態、年代等に対応した音楽療法の役割と方法を理解する。	

音楽療法各論：緩和ケア・その他

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
㉘	1	緩和ケア・その他の音楽療法　1	ホスピス／緩和ケアの精神を知り、この領域に特有の疾患、環境、問題などの特徴について学んだ上で、音楽療法についての理解を深める。	
	2	緩和ケア・その他の音楽療法　2	音楽療法の専門性、可能性と限界、症例、音楽の使い方について学ぶ。チームケアの重要性についても触れる。	
	3	緩和ケア・その他の音楽療法　3	パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病についての理解を深め、その音楽療法の有用性について学ぶ。また、緩和ケアの観点から、神経難病における訪問音楽療法や重度認知症に対する音楽療法の可能性を知る。	

事例の書き方・研究

達成課題

1．研究法を理解すること（科学的なものの見方、考え方を理解する）で、自分のセッションを見直し、整理することができる。
2．自分のセッションを客観的に記述することで、他の人にわかりやすい発表ができるようになる（説明責任を果たすことにもなる）。
3．クライエントやその家族、施設の人達に、音楽療法の効果が理解できるようなエビデンスを出せる音楽療法を実践できる。

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
Ⅰ．音楽療法における事例の書き方と研究とは何かについて理解し、自分の臨床に生かす視点を学ぶ。				
⑥	1	研究とは	研究とは何かを学び、研究の種類、手法、特徴について概観する。	
	2	事例報告とは	事例報告とは何かを学び、事例報告の構成を理解する。	
⑪	3	観察と記録　1	観察と記録について理解し、セッション場面のビデオを見て記録方法を学ぶ。	
	4	観察と記録　2	観察と記録についてさらに理解を深め、記録から事例報告の「経過」を作成する演習も行う。	
Ⅱ．事例の書き方および音楽療法の研究について学ぶ。				
⑳	5	事例の書き方の例　1	ワークシートの記入方法の説明を受け、課題１をまとめ直す。	
	6	事例の書き方の例　2	実際の添削例を読み、どのように抄録原稿を書き直していくかを学ぶ。	
	7	音楽療法の研究　1	量的研究、質的研究、事例研究の違いについて学び、データとの関連についても理解する。	
	8	音楽療法の研究　2	さらに幅広く研究論文を読むための方法や読み方について学ぶ。統計についての基礎的な知識を得る。	
Ⅲ．自分の臨床を抄録としてまとめるための準備をし、統計やデータ処理について学ぶ。				
㉕	9	事例研究のデータと統計　1	得られたデータの表し方（図表の作成等）について学ぶ。自分の事例をもとにどのようなデータの取り方ができるかについても理解を深める。	
	10	事例研究のデータと統計　2	データの性質について学び、どのような統計処理が可能であるかを理解する。	
	11	音楽療法の論文	量的、質的研究の論文をさらに紹介しながら、統計についての理解も深める。	
	12	事例の書き方　1	提出してあった宿題の添削指導を講師から直接受ける。次回の宿題として自分の臨床について抄録が書けるように準備する。	
	13	事例の書き方　2		
Ⅳ．自分の抄録を修正し、今後の抄録作成や発表にむけての基礎的な知識を深める。音楽療法の効果の検証を評価するための統計法についても学ぶ。				
㉟	14	事例の書き方　3	提出してあった宿題の添削指導を講師から直接受ける。	
	15	事例の書き方　4	自分の抄録を書き直す。ペアの人に抄録の骨子を見せ、それをもとに説明する。話し合いながら、何がわかりにくかったのかを知り、それをもとに修正する。	
	16	まとめ　1	これまでの授業を振り返りながら、全体的なまとめ、および事例の書き方を復習する。	
	17	まとめ　2　およびテスト	まとめの続き、およびこれからの発表や面接試験のための準備について具体的に知る。最後に筆記試験を受ける。	

音楽療法技法Ａ（音楽系）　ほとんどの授業は３グループに分かれる

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
②	1	イントロダクション	音源、映像、モデル演奏による現場の紹介を通して、本講座で何を目指しているかをイメージできるようにする。文献、目的となる技術（コンピテンシー）、レパートリーや練習方法を明確にする。	
⑤	2	楽器紹介	音楽療法で用いる楽器について映像や実習を通して情報を得、療法的側面からの楽器選択や配慮、及び注意点などについて体験的に学ぶ。	
⑦	3	伴奏　1	音階、およびコードづけの基礎的知識の確認をし、鍵盤楽器の構造・特質を知る。歌う側に立っての体験もしながら簡単な曲の歌唱伴奏を理解する。	
	4	伴奏　2	簡単な曲の伴奏を理解し、今後の練習の方向性を明確にする。	
⑨	5	諸技術	現場で必要とされる諸技術（先読み、指揮、席や楽器の配置など）について学ぶ。	
⑫	6	音の使い方　1	セッションで使用されるさまざまな楽器を例に出し実際の音・音楽体験を通して、なぜこの曲・楽器なのかなど、有用性についての理解を深める。	
	7	音の使い方　2	実際のセッションを想定し、演習を通しながら対象別の目的に沿った音（楽器）の使い方について理解を深める。	
⑭	8	伴奏　3	簡単な曲から徐々に歌唱伴奏の難易度を高めていく。	
	9	伴奏　4	更に難易度を高めながら集団歌唱についての理解も深める。	
⑱	10	合奏　1	現場における様々な形態・難易度の合奏を紹介し、初歩的なアレンジを試みる。「楽器の紹介」で学んだ楽器の特性を活かした合奏形態を体験的に学ぶ。	
	11	合奏　2	提示された療法目的に沿った合奏活動の組み立てと分かりやすい提示方法について演習を通して学ぶ。	
㉒	12	携帯伴奏楽器	ギター、オートハープなどのポータブルな楽器による伴奏を知る。	
㉗	13	伴奏　5	歌唱伴奏についての知識と技術を深める。	
	14	伴奏　6	歌唱伴奏についての知識と技術をさらに深める。	
㉙	15	伴奏　7	歌唱伴奏についてのこれまでの学習を再確認し、次回に向けての課題を明確にする。	
	16	伴奏　8	歌唱伴奏のまとめとその他の活動の伴奏法の紹介、今後の練習法／レパートリーの拡大について明確化する。	
㉚	17	即興　1	即興の基礎となる音階や旋法を理解し、それらを応用した即興活動を体験的に学ぶ。	
	18	即興　2	各領域の目的に沿った即興の技法を学び、即興する力を育むことを目的とし体験的に学ぶ。	
㉞	19	実技試験	伴奏で学んだことをもとに、面接実技に準じた実技試験を受ける。	
	20	まとめ／筆記試験	音楽療法技法Ａにおいて学んだことを総括する。最後に筆記試験を受ける。	

音楽療法技法Ｂ（非音楽系）　３グループに分かれる

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
⑯	1	身体と他者関係	オリエンテーションとして身体と他者関係に関するさまざまなワークを体験する。	
	2	表現とグループワーク	さまざまな表現とグループワークを通して、自分に気づいていく体験をする。	
㉔	3	身体をとおしたワーク	緊張と弛緩、呼吸、息を合わせる、声、身体を用いた他者とのかかわりやワークを通して、自己の身体と心のありように気づく。	
	4	他者関係のためのワーク	他者と自己との距離感、声を届ける、あるいは受け止める、援助をする、あるいは援助されるなどのワークを通して、ノンバーバルな他者との関係やコミュニケーションに気づく。	
	5	表現のワーク	身体、声、絵、遊具などを使った表現を取り入れたワークを通して自己に気づく。	
	6	グループワーク	さまざまなワークを取り入れながら、グループで共同作業をして発表する。	

㊲	7	身体をとおしたワーク	緊張と弛緩、呼吸、息を合わせる、声、身体を用いた他者とのかかわりやワークを通して、自己の身体と心のありように気づく。	
	8	他者関係のためのワーク	他者と自己との距離感、声を届ける、あるいは受け止める、援助をする、あるいは援助されるなどのワークを通して、ノンバーバルな他者との関係やコミュニケーションに気づく。	
	9	表現のワーク	身体、声、絵、遊具などを使った表現を取り入れたワークを通して自己に気づく。	
	10	グループワーク	さまざまなワークを取り入れながら、グループで共同作業をして発表する。	

注意事項：軽い運動をするための服装や上履きが必要です。季節によりバスタオルなどの使用もあります。
講座内容の説明が同じでも、３名の講師によるワークで内容はそれぞれ異なります。

音楽療法演習　４グループに分かれる

枠	コマ	テーマ	内　容	日　程
⑩	1	障がい児・者の演習	障がい児・者を対象にした楽器および歌唱活動における諸技術を演習する。	
⑲	2	高齢者の演習	高齢者を対象にした楽器および歌唱活動における諸技術を演習する。	
㉓	3	携帯伴奏楽器の演習	音楽療法の現場における携帯伴奏楽器の応用を演習する。	
㉛	4	セッションプログラムの作成　1	７、８名の小グループに分かれてセッションプログラムを組み立てる。	
	5	セッションプログラムの作成　2		
㊳	6	実践とフィードバック1	７、８名の小グループに分かれてセッションプログラムを実践し、フィードバックし合う。	
	7	実践とフィードバック2		
	8	実践とフィードバック3		
	9	実践とフィードバック4		